



日本の宝島“天草”の創造を目指して!

市政だより

AMAKUSA
天草



「完走目指して“早春の天草路を快走”」

熊本県サイクリング協会主催の「第16回天草下島一周サイクルマラソン」が3月1日、新和町民センター前をスタート・ゴールとする135kmと105kmのコースで開催されました。今年の大会には、北海道や関東など県内外から、11～76歳のサイクリング愛好家・約750人が参加。当日は、潮風が強く吹き付ける中、参加者は完走を目指して、早春の天草路を快走していました。

主な内容

- 市民憲章・市のシンボルなどを決定!.. 2～3
- 本渡港～三角港間に定期船が就航!.. 4～5
- 天草グリーンライフコミュニティ事業の取組状況..... 6
- 65歳以上の人介護保険料..... 7
- 宝島の話..... 8～11
- みんなの広場..... 12～15

平成21年

4

1

No.72

市民憲章・市のシンボルなどを決定！

市では、まちづくりを進めるための指標となる「市民憲章」「市のシンボル(花・木・鳥・魚)」「市民と行政の協働指針」を決定しました。

市民憲章などの策定にあたっては、昨年5月にまちづくり団体の代表者などで行く市民憲章等審議会(会長Ⅱ荒木昭次郎・熊本県立大学教授、ほか委員14人)を設置。同審議会では、市が諮問した事項について市民の皆さんの声を反映させたものとするため、市民憲章などの案の募集やパブリック・コメント(意見募集)を実施するなど、今年2

月までに計7回の会議を開き協議・検討を重ね、2月6日に安田市長へ答申書を提出しました。

市では、答申の内容を尊重し、市民憲章などを決定。本市が誕生して3周年となる3月27日を制定日としています。なお、同審議会が実施した市民憲章などの案の募集には、延べ229人から応募をいただきました。ありがとうございました。

※詳細は、本庁・企画課企画調整係 ☎11111内線1314へお尋ねください。

市民憲章

わたしたちは、将来にわたって夢と希望に満ちあふれた天草市となることを願い、ここに天草市市民憲章を定めます。

- 一 感謝の心をもち、豊かな「しぜん」を守ります
- 一 ふるさとを愛し、誇れる「ひと」を育てます
- 一 恵まれた風土を活かし、「ものづくり」に励みます
- 一 伝統と文化を学び、安らぎのある「まち」を創ります
- 一 世代の調和を大切に、「健やかな「和」」を広げます

市のシンボル

市の花「はまぼう」



海岸付近に自生するアオイ科の落葉低木で、7月から8月にかけて、鮮やかな黄色の花を咲かせます。多くの府県で絶滅危惧種とされている中で、市内には群生地があります。

市の鳥「かもめ」



海岸などに生息する飛翔力の強い鳥で、体は白色、背・翼は青灰色。魚の水揚げをする港などで、よく見ることができ、海をイメージさせるため、海に囲まれた天草を象徴する鳥です。

市の木「あこうの木」



海岸付近で見られるクワ科の半常緑高木。大地に力強く根を張り、枝や幹から多数の気根を垂らしています。天草では、昔から防風樹・防潮樹として役立つなど、郷土の歴史や文化に深いつながりがある木です。

市の魚「鯛」



近海に生息する桜色の魚。その姿・色は美しく、味も良いことから「海魚の王」と呼ばれ、縁起のよい魚として、祝い事に用いられています。本市では釣りだけでなく、養殖や稚魚の放流なども盛んに行われています。

市民と行政の協働指針

「市民と行政の協働指針」は、宝の島(天草市)をつくることを目標に、市民と行政の協働によるまちづくりを推進するために策定したものです。同指針の主な内容(項目)は次のとおりとなっています。

1 今「協働」が求められています

- ①「市民と行政の協働指針」策定の背景
- ②協働とは
- ③協働によって期待される効果

2 協働を進めるうえでの現状と課題

- ①天草市における自主的な社会活動の現状
- ②天草市における課題

3 協働の理念と原則

- ①協働の理念「みんなで作ろう宝の島を!!」
- ②協働の原則
- ③市民・行政に求められる姿勢

4 協働の推進に向けて

- ①協働の基盤整備：市民への周知、行政内の体制整備、広聴機能の充実、人材バンク

- ク制度の整備
- ②市民活動への支援：人材の育成、活動拠点の整備、広報活動の充実、財政的支援のあり方、支援の手法
- ③市民の提案が市政に反映される制度・情報共有の推進：情報共有の推進、パブリック・コメント制度、市民提案制度、市の附属機関委員の選任、意見・提案機会の確保
- ④市民活動組織の強化：運営のルールづくり、人材の確保・育成、活動資金の調達

「市民と行政の協働指針」の全文については、本庁・企画課や各支所・総務振興課のほか、市のホームページでもご覧いただけます。

なお、同指針は協働によるまちづくりを推進するための基本的事項などを示したものです。今後、「市民と行政の協働実行計画(仮称)」を策定し、具体的な取り組みを推進していくこととしています。

市のシンボルの写真を募集します

市民の皆さんに、市のシンボルに親しみを持ってもらおうと、公共施設に掲示することなどを目的に、市の花・木・鳥・魚の写真を募集します。皆さんの応募をお待ちしています。

- **題材**＝市のシンボル(市の花…はまぼう、市の木…あこうの木、市の鳥…かもめ、市の魚…鯛)。
- **応募資格**＝どなたでも応募できます。
- **応募規定**＝応募は1人何点でも可(ただし、平成20年1月以降に市内で撮影した写真に限ります)。サイズはカラーのA4～四つ切(ワイド四つ切可)で、単写真に限ります。デジタル処理による画像の合成・消去は不可。
- **応募期限**＝12月25日(当日消印有効)まで。
- **応募方法**＝本庁・企画課または各支所・総務振興課に備え付けの応募票に必要事項を記入

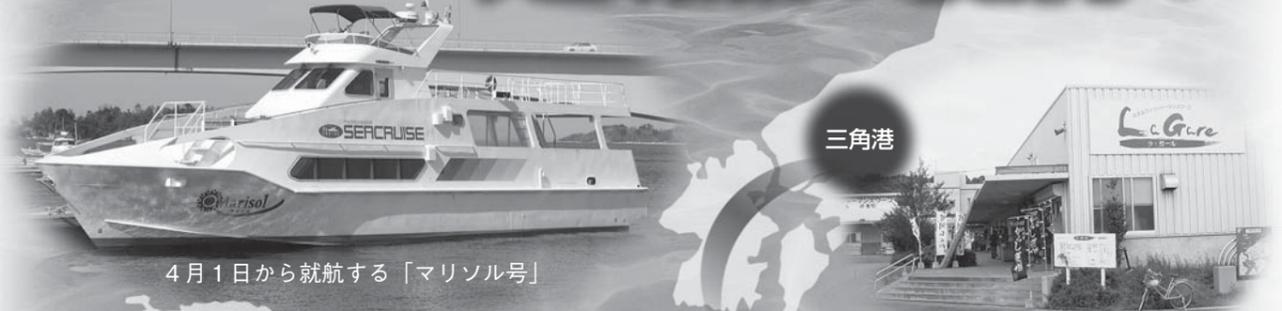
し、作品の裏面に貼付のうえ、〒863-8631(住所記載不要)天草市役所・企画課へ郵送または持参してください。なお、応募票は市のホームページから取ることもできます。

- **表彰**＝シンボルごとに、特選1人…賞金3万円、入選2人…同1万円(発表は来年2月上旬に入賞者へ通知します)。
- **その他**＝①応募作品は返却しません②入賞作品の著作権は天草市に帰属します③入賞通知後、ネガ・ポジ(デジタルカメラで撮影した場合は画像データ)の提出がない場合は失格とします④個人情報については厳重に管理し、入賞者への通知の発送・電話連絡のみに使用します。

【問い合わせ先】

本庁・企画課企画調整係(内線1314)

4月1日から 本渡港～三角港間に 定期船が就航!

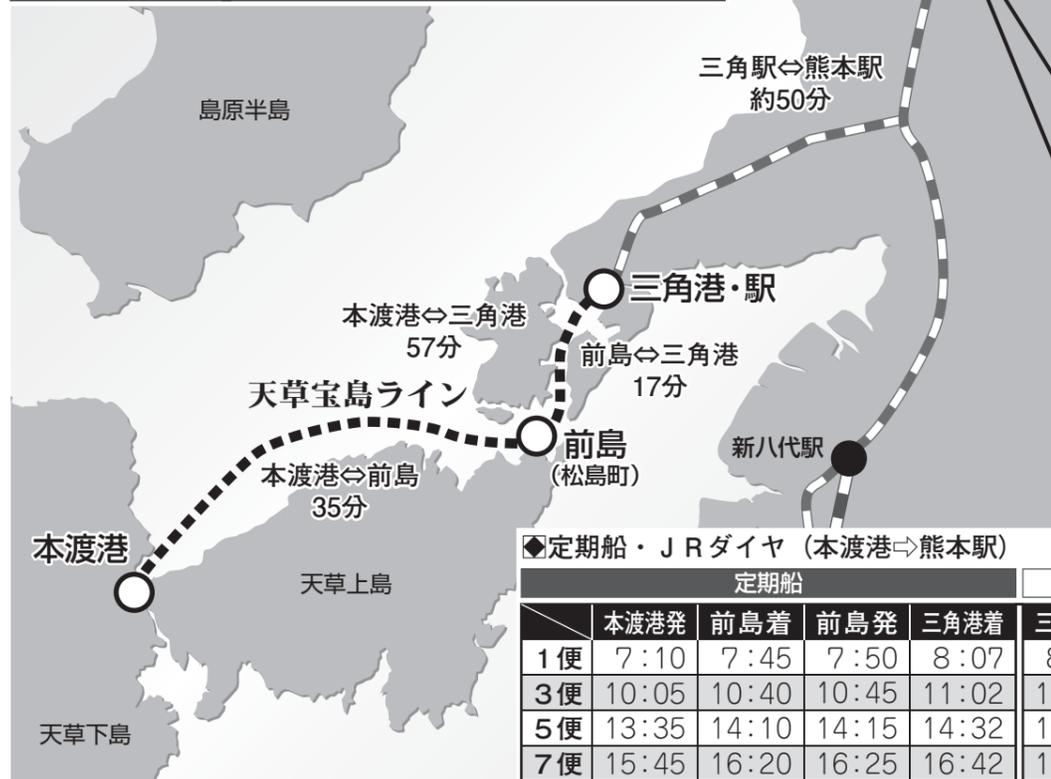


4月1日から就航する「マリソル号」



◆JR・定期船ダイヤ (熊本駅⇄本渡港)

JR		定期船				
熊本駅発	三角駅着		三角港発	前島着	前島発	本渡港着
7:26	8:17	2便	8:35	8:52	8:57	9:32
10:01	10:55	4便	11:10	11:27	11:32	12:07
13:37	14:25	6便	14:40	14:57	15:02	15:37
16:02	16:52	8便	17:05	17:22	17:27	18:02



博多駅	JR	約80分	熊本駅からの行き先
		2,070円	移動 所要時間
			手段 片道料金(はと)

阿蘇駅	JR	約105分
		1,080円

阿蘇くまもと空港	バス	約55分
		670円

交通センター	バス	約10分
		130円

熊本県庁	バス	約30分
		260円

◆定期船・JRダイヤ (本渡港⇄熊本駅)

	定期船				JR	
	本渡港発	前島着	前島発	三角港着	三角駅発	熊本駅着
1便	7:10	7:45	7:50	8:07	8:22	9:11
3便	10:05	10:40	10:45	11:02	11:16	12:08
5便	13:35	14:10	14:15	14:32	14:51	15:43
7便	15:45	16:20	16:25	16:42	16:57	17:49

天草の観光振興に 大きな期待!

4月1日④から、本渡港～三角港間(上天草市松島町・前島(天草五橋の4号橋付近)経由)の片道約37kmを57分で結ぶ定期船が就航します。

これは、本渡港～熊本港間を結ぶ高速船・マリソル号が3月末で休止となったことに伴い、上天草市で観光船事業などを展開する株式会社シークルーズが運航するものです。通常は、同社が所有するクルーザー「マリソル号」(19トン)1隻で運航。お盆や年末年始などは「セレナ号」(19トン)を追加運航されます。

今回の定期船の就航は、天草と熊本都市圏とを結ぶ海上(い)。また、料金は下表のとおりとなっています。

本渡港～熊本駅間の 所要時間は約2時間

三角港から徒歩約5分のところに三角駅があり、定期船はJR三角線のダイヤにあわせて運航されるため、JRを乗り継ぐと本渡港～熊本駅間が約2時間で結ばれます(ダイヤは上表を参照)。この所要時間は、これまでのマリソル号とシャトルバスを利用した場合とほとんど変わりません。

なお、三角駅～熊本駅間の所要時間は約50分で、料金(片道)は12歳以上が720円、6歳以上12歳未満が360円となっています。

切符売り場と 乗船予約の方法

【切符売り場】
定期船の切符は次の3カ所で購入できます。

- 本渡港ターミナル ☎②③ 2133

交通網の維持だけでなく、九州新幹線の全線開業を平成23年春に控え、天草の観光振興などに大いに役立つものと期待されます。

本渡港～三角港間を 1日4往復運航

就航する定期船は、マリソル号が定員73人、セレナ号が同50人のクルーザーで、2隻ともエアコンとトイレが完備されており、快適な船旅を楽しむことができます。

本渡港を始発に三角港間を1日4往復し、本渡港～三角港間を57分、本渡港～前島間を35分、前島～三角港間を17分で結びます(ダイヤは次ページ上の表を参照してください)。

◆定期船の料金 (単位:円)

区間		中学生以上	3歳以上
本渡港～三角港	片道	2,000	1,000
	往復	3,600	1,800
本渡港～前島	片道	1,200	600
	往復	2,000	1,000
前島～三角港	片道	800	400
	往復	1,400	700

※3歳未満は無料。
※団体割引と障がい者割引があります(ただし、併用はできません)。

- シークルーズ(上天草市松島町・前島(天草五橋の4号橋付近) ☎⑤⑥ 2458
- 三角港ラ・ガール乗船待合所 ☎⑧ 0964⑤③ 2666

【乗船予約の方法】

電話またはインターネットで乗船予約をすることが可能です。希望する人は、乗船日前日の午後5時までにシークルーズへ予約してください。

- 【電話】 ☎⑤⑥ 2458
- 【ホームページアドレス】
<http://www.seacruise.jp/>

天草グリーンライフ コミュニティ事業の取組状況

市などでは、団塊の世代の方々や都会に住んでいる人たちが出身地などに戻って生活するU・J・ターナーを望む方々を対象に「天草グリーンライフコミュニティ事業」に取り組んでいます。

この事業は、増大する遊休農地を活用して、都市住民に天草の海・山・郷の豊かな自然の恵みを生かした天草ならではの田舎暮らしを提供し、天草への定住や、都市と天草の両方に居住地を持つ二地域居住などにつながることで、過疎化・高齢化が進む集落(地域)の活性化を図ることを目的に取り組んでいるものです。今回は、同事業の取組状況についてお知らせします。



▲短期滞在型体験施設「かねやき倶楽部」



▲長期滞在型体験施設「ダーチャかねやき」

田舎暮らしを体験できる施設ができました

市と特定非営利活動法人グリーンライフあまくさ(西山忠彦・理事長)では、平成18年度から天草グリーンライフコミュニティ事業に取り組み、各種イベントなどでのPR活動や天草で暮らそう！体験ツアーなどを共同で実施しています。

この事業の一つとして、都市住民に気軽に天草へ来ていただき、田舎暮らしを体験してもらおう短期滞在型の施設「かねやき倶楽部」と、四季を通じて天草暮らしを堪能していただく長期滞在型の施設「ダーチャかねやき」を下浦町金焼地区の金焼港周辺に整備しました。

「かねやき倶楽部」は1泊2日から1カ月までの短期間、

「ダーチャかねやき」は1年契約で最長5年まで延長して利用することができます。また、ダーチャかねやきには家庭菜園も整備しているため、自ら栽培した季節の野菜で自給自足的な天草暮らしを体験してもらうこともできます。

これらの施設を利用して、都市住民に地元の地域行事などにも積極的に参加していただきながら、田舎のコミュニティを体験してもらい、天草への定住や二地域居住につなげていただきたいと考えています。

市ホームページで「田舎暮らし情報」発信

市ホームページ内に「田舎暮らし情報」コーナーを設けました。

同コーナーでは、空き家等

◆「空き家等情報バンク制度」への登録物件の状況

空き家	15件
空き地	7件

◆「空き家情報バンク制度」による空き家の利用者と利用希望登録者の状況

利用者	2家族
利用希望登録者	46人

情報バンク制度の紹介や空き家・空き地の物件情報のほか、空き家などを借りたい人・買いたい人や、貸したい人・売りたい人の同制度への登録方法などを掲載しています。

なお、3月19日現在の空き家等情報バンク制度への登録状況は右表のとおりです。市内に空き家・空き地を所有している人で貸し出しや売却が可能な人は、本庁(別館)・農業振興課へご連絡ください。

※詳しいことは、本庁(別館)・

農業振興課都市農村交流係

☎②11111内線2591

へお尋ねください。

介護保険

65歳以上の人の 保険料が変わります

介護保険は、加入者が保険料を出し合い、介護を社会全体で支え合う制度です。

介護保険料は3年ごとに見直すことになっており、本市も平成21年度からの保険料を見直します。

この保険料は、要介護等認定者への介護サービスなどの提供のほか、要支援・要介護状態になるおそれがある高齢者の介護予防の取り組みに使われるなど、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための貴重な財源となります。

65歳以上の人の平成21年度からの保険料は、本市で必要な介護サービス費用をまかなうために算定された基準額をもとに、所得に応じて右表のとおりとなっています。



◆65歳以上の人の平成21年度からの介護保険料

段階	対象	計算方法	年間保険料
第1段階	○老齢福祉年金受給者で、世帯全員が住民税非課税の人 ○生活保護の受給者	基準額 × 0.5	24,000円
第2段階	○世帯全員が住民税非課税で、前年の合計所得金額と課税年金収入額の合計が80万円以下の人		
第3段階	○世帯全員が住民税非課税で、第2段階に該当しない人	基準額 × 0.75	36,000円
第4段階	○本人が住民税非課税で、世帯の中に住民税を課税されている人がおり、前年の合計所得金額と課税年金収入額の合計が80万円以下の人	基準額 × 0.8	38,400円
	○本人が住民税非課税で、世帯の中に住民税を課税されている人がいる人	基準額	48,000円
第5段階	○本人が住民税を課税され、前年の合計所得金額が200万円未満の人	基準額 × 1.25	60,000円
第6段階	○本人が住民税を課税され、前年の合計所得金額が200万円以上の人	基準額 × 1.5	72,000円

◆基準額の計算式

$$\text{基準額} = \frac{\text{本市の介護サービスに必要な費用のうち、65歳以上の人が保険料で負担する分}}{\text{本市の65歳以上の人の数}}$$

● 保険料の急激な上昇を軽減 ●

平成21年度からの介護報酬の改定に伴う、介護保険料の急激な上昇を抑えるため、国から特例交付金が交付されます。これにより、平成21年度から同23年度までの介護保険料が、年額約750円減額されます（上表の介護保険料は、減額後の額を掲載しています）。

● 保険料の納付方法は2種類 ●

介護保険料を納める方法は、本人の年金受給額などによって、次の2通りに分けられます。

①年金からの差し引き（特別徴収）

2カ月ごとに支払われる年金から、2カ月相当

分の保険料が差し引かれます（4月・6月・8月・10月・12月・翌年2月）。

●対象＝老齢（退職）・遺族・障害年金の受給年額が18万円以上の人。なお、老齢福祉年金などの年金のみを受給している人などは対象となりません。

②納付書や口座振替による納付（普通徴収）

9期に分けて、納付書や口座振替で納めることとなります（6月～翌年2月）。

●対象＝老齢（退職）・遺族・障害年金の受給年額が18万円未満の人。また、年度途中で65歳になった人や他の市区町村から転入した人など。

【問い合わせ先】 本庁・高齢者支援課 ☎③1111内線1192



▲1個800円で販売中の「へのかっぱ人形」
“福ちゃん”（左）と“笑ちゃん”（右）

へのかっぱシリーズ第4弾誕生！

2/15 栖本

～「へのかっぱ人形」販売中～

栖本まちづくり協議会が、かっぱをモチーフにした陶器製の「へのかっぱ人形」を2月15日から販売しています。同協議会ではこれまで、“へのかっぱ”と銘打った携帯ストラップなどを特産品として開発。4作目となる今回の人形は“笑う門には福来る”という思いを込め、福ちゃん(男)と笑ちゃん(女)の2種類を製作。土台には地元産の真竹を使用しています。現在、栖本温泉センターなどで販売中。詳細は同協議会事務局(栖本支所・総務振興課内)☎663111へ。



▲「ツーリズムは、人を呼び込むためにテーマを決めて取り組むことが大切」などと語る岩見龍二郎さん

新和地区のさらなる活性化に向けて！

2/26 新和

～まちづくり研修会～

市では、平成21年度から各支所が地域活性化に向けて取り組む「いきいき地域創造事業」を実施します。新和支所では、同事業の一つとして宮南半島ツーリズム事業(長期滞在型の観光)に取り組むため2月26日、「まちづくり研修会」を同支所で開催しました。市職員など65人が参加した研修会では、(社)天草宝島観光協会の岩見龍二郎さんが講演。天草のツーリズムの現状や今後の方向性(テーマ)などについて話され、参加者は熱心に聞き入っていました。



▲牛深ハイヤ節、じょうずに歌えるかな？

ハイヤ節全国大会に向け練習に励む

3/1 牛深

～牛深ハイヤ節講習会～

6月に開催される牛深ハイヤ節全国大会に向け、同大会実行委員会主催によるハイヤ節の講習会が3月1日、牛深総合センターで開催されました。この講習会には、地元住民など20人が参加。ハイヤ節の説明などの後、三味線と太鼓にあわせての歌いだし練習などが行われ、参加者は「地方にあわせるのは難しい」と言いながらも一生懸命、練習に励んでいました。なお、同大会は6月27・28日に、牛深総合センターで開催されます。皆さんも歌ってみませんか。



▲在校生から送辞を受ける
倉岳高校最後の卒業生の皆さん

卒業生・在校生のそれぞれが決意新たに

3/1 倉岳

～倉岳高校卒業式・分校移行式～

4月から天草高校倉岳校となる倉岳高校で3月1日、最後の卒業式と分校移行式が行われました。同式には生徒や教職員、歴代校長など約120人が出席。移行式では、岡崎佳子校長があいさつした後、2年の緒方千果さんが「校名が変わっても倉高生としての精神を忘れず、伝統を受け継いでいきます」と誓いの言葉を述べました。同校は、昭和27年に天草農高倉岳分室として開校。同46年に倉岳高校となり、以来18年間で3,466人の卒業生を送り出しました。



▲本渡中学校吹奏楽団・金管八重奏のメンバー

本渡中吹奏楽団のメンバーが全国大会へ

2/7 本渡

～九州アンサンブルコンテスト～

2月7日、「九州アンサンブルコンテスト」が佐賀市文化会館で開催され、本渡中学校吹奏楽団の金管八重奏のメンバーが金賞を受賞。3月20日に富山市で開かれる全国大会への初出場を決めました。同コンテストの中学校の部には、九州各県の代表30校が出場。同楽団のメンバー8人は、日ごろの練習の成果を発揮し、息の合った金管楽器のハーモニーを披露しました。安田拓斗さん(2年)は「九州の代表として精一杯、演奏してきます」と話していました。



▲潮風を受けながら懸命に走る
3kmコースの参加者の皆さん

マラソンとお祭りに多くの人出

2/11 御所浦

～しおさいマラソン・よかとお祭～

2月11日、「しおさいマラソン大会」が御所浦小学校をスタート・ゴールで開催されました。同大会には、3・5・10km走と4kmの歩こう大会に市内外から約500人が参加。潮風を受けながら、思い思いのペースで走ったり歩いたりしていました。また、同日開催された「よかとお祭2009」では、長崎県諫早市の音楽家・山本安輝さんが作詞・作曲した演歌「御所浦よかとお宝島」が披露されたほか、魚のかみどりなども行われ、多くの人出でにぎわっていました。



▲手に汗握る熱戦を繰り広げる剣士たち

少年・少女剣士たちが熱戦展開！

2/11 河浦

～建国記念の日剣道大会～

「河浦町建国記念の日剣道大会」が2月11日、河浦中央体育館で開催されました。これは、河浦町剣友会が毎年実施しているもので、今年で43回目。大会には、52チーム(小学校低学年20・同高学年15・中学生17)・合計252人が参加。子どもたちは日ごろの練習の成果を発揮し、白熱した戦いを繰り広げていました。なお、優勝は小学校低学年の部・二江少年剣道クラブ光声会、同高学年の部・栖本少年剣道クラブ青志会、中学生の部・栖本中学校Aでした。



▲福岡県副知事を務められた稗田慶子氏が講演

男女共同参画社会を進めるために！

～稗田慶子講演会～

市男女共同参画週間事業の一つとして2月21日、講演会を天草宝島国際交流会館ポルトで開催しました。講師は本市出身で、九州では女性初の副知事として福岡県副知事を務められ、現在、福岡県男女共同参画センターあすばる理事長の稗田慶子氏。稗田氏は「子どもを産んでも働ける社会をつくること、これからは女性も社会のさまざまな意思決定の場に参画することが重要」などと話され、会場に訪れた市民など約250人は熱心に聞き入っていました。



▲天草のまちづくりについての課題などを語る古賀倫嗣氏

「市民と行政の協働によるまちづくり」さらなる推進を

～日本の宝島“天草”づくり講演会～

2月22日、「日本の宝島“天草”づくり講演会」が天草市民センターで開かれ、各地区振興会役員など約300人が参加しました。まず、市まちづくりモデル支援事業に取り組みまちづくり協議会と地区振興会が事例発表を行った後、「日本の宝島“天草”のまちづくり検証」と題して、熊本大学教授の古賀倫嗣氏が講演。古賀氏は「魅力あるまちをつくるためには、市民と行政の協働によるまちづくりをさらに推進することが必要」などと話されました。



▲文部科学大臣優秀教員表彰を受賞した赤城理恵教諭

特別支援教育の取り組みが高評価！

～赤城理恵教諭が文部科学大臣優秀教員表彰を受賞～

瀬戸小学校の赤城理恵教諭が2月9日、優秀教員として文部科学大臣表彰を受けられました。これは、特別支援学級での道徳教育の研究・実践や、教育課程の編成、特別支援教育コーディネーターとしての保護者や関係機関との連絡調整など、さまざまな特別支援教育の取り組みが高く評価されたものです。赤城教諭は「今後も『少しずつ、少しずつ、それが大きい』をモットーに、天草っ子たちの笑顔をさらに輝かせたい」と話していました。



▲全国大会初出場を決めた天草高校女子ハンドボール部の皆さん

天草高校女子ハンドボール部が全国大会へ

～九州高校選抜ハンドボール選手権大会～

2月8・9日、「第37回九州高校ハンドボール選手権大会」が鹿児島アリーナで行われ、天草高校女子ハンドボール部が決勝で筑紫女学園高校（福岡県）に27対21で勝ち初優勝。3月25～30日に徳島市で開かれる第32回全国高校ハンドボール選抜大会に、九州代表として出場します。主将の田中美沙紀さん（3年）は、「全国大会では、チーム一丸となり上位入賞を目指します。皆さんの期待に応えることができるよう、精一杯戦いたい」と話していました。



▲自らの取り組みなどをもとに「人と食をテーマにまちをつくるという思いが大切」と語る本田節氏

高齢者や女性の力を地域振興に生かして！

3/5
本渡

～本渡まちづくり発表会～

3月5日、「本渡まちづくり発表会」が天草市民センターで開かれました。この発表会には、各地区振興会役員や地区住民など約150人が参加。本渡まちづくりモデル事業に取り組んだ志柿・楠浦・下浦地区振興会の事例発表が行われた後、火の国未来づくりネットワーク会長の本田節氏が講演。本田氏は「地域づくりのキーワードは“人”と“食”。高齢者や女性の経験などを生かして、地域振興を図ってほしい」などと話され、参加者は熱心に聞き入っていました。



▲閉校記念式典で校歌を合奏する児童たち

134年の歴史に幕を下ろす

3/8
有明

～赤崎小学校閉校式・閉校記念式典～

浦和小学校との統合に伴い、明治8年の開校以来134年の歴史に幕を下ろす赤崎小学校で3月8日、閉校式や閉校記念式典などが行われました。同式には児童や保護者、地元住民など約600人が出席。閉校式に続いて行われた同式典では、児童たちが小学校での活動発表や歴史を振り返る寸劇などを披露したほか、全校児童49人による校歌の合奏や卒業生らによる合唱、同校の思い出を語るスピーチも行われ、参加者全員で母校との別れを惜しんでいました。



▲「ふれあい処わだち」を運営する会員の皆さん

御領の交流拠点を目ざして！

3/8
五和

～「ふれあい処わだち」がオープン～

五和町の御領門前町商店街に3月8日、物産販売・交流施設「ふれあい処わだち」がオープンしました。これは、御領まちづくり振興会・わだちの会が、地域住民の交流の場や町並み散策をする人たちの休憩所にしようと、民家を借りて開設したものです。この施設には、地元の食材を使った惣菜や菓子類などが並んでいるほか、コーヒーや手作りケーキを楽しめる喫茶コーナーなどもあります（毎週水・土・日曜日に開設）。皆さん、気軽にお立ち寄りください。



▲地域資源の洗い出し作業を行う参加者

地域の宝を生かしてより一層の賑わいを

3/12
天草

～賑わい創出・市街地環境整備モデル事業「住民ワークショップ」～

高浜地区振興会では、地域資源を生かして地区の活性化を図ろうと、県の「賑わい創出・市街地環境整備モデル事業」に取り組んでいます。3月12日には、「住民ワークショップ」を高浜公民館で実施。神奈川大学の曾我部昌史教授を講師に迎え、同振興会役員など32人が4班に分かれて、地区の活性化を図るための宝となる天草陶石や白鶴浜など資源の洗い出し作業を行いました。次回は5月に実施し、「今まで何が足りなかったか」をテーマに協議を行います。



市長随筆



大きな夢に向かって挑戦

先日、出張を終えた帰宅途中、鹿児島市で開かれた九州大会から帰ってきたばかりの天草高校女子ハンドボール部の皆さんに偶然お会いしました。話を聞くと、その大会で見事優勝を果たし、全国大会出場を決めたとのこと。私はうれしく思い、その場でお祝いのごあいさつをさせていただきました。

天草市長 安田 公寛

宝島の健康 よろず屋



濱崎 規矩男 さん (深海町・100歳)

—— 毎日の楽しみは？
デイケアで、みんなと話をしたり運動したりすることです。温かい季節になってきたので、畑に行ったり散歩したりして毎日を楽しみたいですね。

健康の秘訣は？

記憶力が低下しないように、毎晩、寝る前に昔の楽しかったことや苦労したことを思い出して、頭のトレーニングをしています。また、好き嫌いなく何でも食べることで、毎日少しだけカリン酒を飲んでいることも健康の秘訣ですかね。



若っ喝采

岡田 知里 さん (有明町下津浦・20歳)

農協に勤務して丸2年。現在、窓口を担当しており、「親切」「ていねい」をモットーに、笑顔での対応を心がけています。趣味は音楽鑑賞。仕事の疲れをいやしてくれるなど、私の日常生活になくてはならないものです。最近、映画などのサウンドトラックに夢中。歌詞はありませんが、なかなか楽しめますよ。



日本の伝統文化から礼儀を学ぶ

手野保育所

五和町にある手野保育所（城山千壽絵所長・全園児31人）では3月3日、園児たちが作ったおひな様を飾り、ひな祭り会を行いました。その中でお茶ごっこを実施。年長児が中心となって各クラスの園児たちを招待し、女の子は着物姿、男の子ははかま姿で多少緊張しながらも、お菓子を運び、お茶を立てました。年長児たちは「一服差し上げます」「どうぞ」など基本的な言葉や動作を大切にしながら、小さなお客様をもてなしていました。お茶ごっこでは、園児たちのひな人形のような優しい笑顔がたくさん見られ、まさに「今日は楽しいひな祭り」。これからも、日本の伝統文化に触れる機会をつくっていきたいと考えています。



料理ごっこで“パンづくり”をする園児たち

体験活動を通して たくましく、心豊かな子どもに

瀬戸保育園

瀬戸保育園（渡邊真佐子園長・全園児60人）では、「元気で明るく素直な子ども」を目標に、さまざまな活動に取り組んでいます。心を豊かにする食育では、園庭で野菜などをつくり、収穫したものは料理ごっこなどで利用。園児たちは健康な心



授業中も元気いっぱいの子どもたち！

ぐんぐん伸びよう！黒潮パワーの牛深っ子

牛深小学校

運動場の大きなせんだんの木が、子どもたちをそっと見守る牛深小学校（川上光行校長・全校児童409人）。「感じ・考え・表す力」を伸ばすため、言葉の良さを見つめ、人とのかわり合いを大切にする「せんだん学習」を進めています。この学習により、国語科を中心に、あらゆる教科を通して「読む、書く、話す、聞く」ことの力を鍛える学習スタイルを身に付けます。また、子どもたちは読書活動を積極的に実施。保護者の皆さんによる読み聞かせも続いており、子どもたちはたくさん本と出会います。牛深っ子たちは、こうした取り組みを通して、黒潮の流れのように元気いっぱい学び続けます。

日本一を目指す

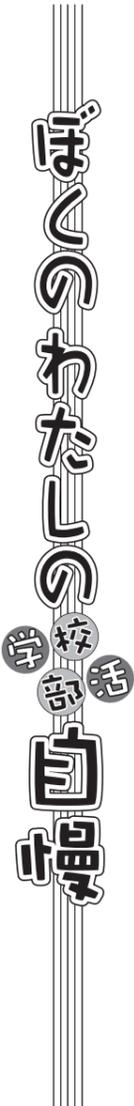
小さな学校！

天草高校天草西校

天草町にある天草高校天草西校（平野金波校長）は、全校生徒55人の小規模校です。平成14年度から中高一貫教育の指定を受け、天草中学校の生徒たちとスポーツフェスティバルや百人一首大会などを通して、親睦を深めています。また、ウエイトリフティング部は13年連続で全国高校総体に出場。平成20年度は、県高校総体で2年ぶり3回目の学校対抗優勝を飾ったほか、個人でも全国高校総体3位入賞、国民体育大会では2人が上位入賞を果たしました。現在、部員が4人と少人数ではありますが、県高校総体での連続優勝と、全国レベルの大会での優勝を目指して、日々の練習に一生懸命取り組んでいます。



▲県高校総体で学校対抗優勝を飾ったウエイトリフティング部員





きら 煌めく人たち

「全国での上位入賞と駅伝日本一を目ざす」

渡邊 一磨 さん (志柿町・15歳)

今年1月に開かれた全国都道府県対抗男子駅伝に県代表として出場。また、2月の郡市対抗熊日駅伝では区間賞の走りで、天草市チームの3位入賞に貢献するなど、中学の陸上長距離界で活躍してきた。本渡東中学校ではサッカー部に所属。長距離選手だったサッカー部監督の勧めで、2年のとき、ジュニアオリンピック県予選会の1500mに出場。見事優勝を果たし、全国大会への切符を手にした。全国大会では「自分の力がまったく通用せず、もっと速くなりたいと思った」という。

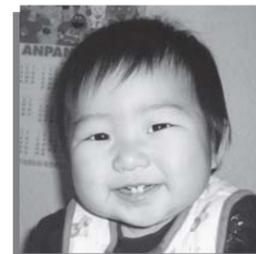
3年になり、周囲の人たちの期待にプレッシャーを感じ、タイムが伸びず悩んだ。そのため、一時はサッカーに専念。これが気持ち切り替えるいきっかけとなり、その後の県中体連陸上競技大会3000m優勝などにつながった。「陸上は、気持ちの持ち方がタイムの良し悪しに影響する難しい競技だが、自分が成長していることが実感できて楽しい。中でも、みんなで力を合わせて競う駅伝が好き」。中学駅伝では一昨年、同校初の九州大会出場に貢献。昨年は県大会3位となったが、「自分の力不足で優勝を逃し、みんなに迷惑をかけた。この経験は今後に生かしたい」と話す。今春、陸上長距離で名門の熊本市内の高校に進学する。「大きな壁が立ちほだかると思うが、強い気持ちを持って乗り越えていきたい」。そして「個人では全国レベルの大会での上位入賞、駅伝では日本一が目標」と力強く語る。長距離選手として未知の可能性を秘めたランナーの、さらなる飛躍を期待したい。

ハッピーバースデー 1歳になりま〜す



松岡 藍人 くん

久玉町
平成20年4月2日生
父・康二さん 母・理佐さん
ゆり姉ちゃん、
これからもいっぱい遊んでね!



柴田 真緒莉 ちゃん

亀場町亀川
平成20年4月16日生
父・渉さん 母・悦子さん
お歌が大好きです。
おててをたたいて、踊るよ♡



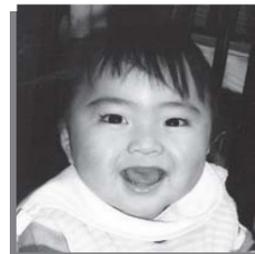
和泉 桜子 ちゃん

丸尾町
平成20年4月28日生
父・直也さん 母・佳代子さん
2人のお兄ちゃんにいっぱい遊んでもらっています。しあわせ♡



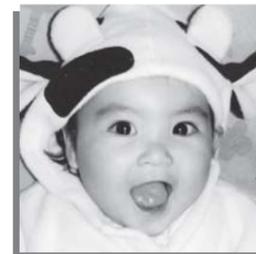
黒田 綾汰 くん

五和町御領
平成20年4月19日生
父・英治さん 母・幸子さん
あんよが上手になりました。
早くお兄ちゃんと走りたいなあ♡



毛利 洋平 くん

北浜町
平成20年4月18日生
父・洋さん 母・洋子さん
いつも笑顔にいやされています♡
やさしい子に育ってね!!



伊藤 優里 ちゃん

牛深町
平成20年4月15日生
父・博之さん 母・ゆう子さん
八百屋の人気者! 愛きょうの良さは、おじいちゃん譲りです♡

5月で満1歳になるお子さんを募集します!

●応募期限=4月10日(金)まで(必着)。
●応募方法=写真裏にお子さんの住所、氏名(ふりがな)、生年月日、性別、電話番号、コメント(35字以内)、保護者名(父・母)を記入し、〒

863-8631(住所記載不要)天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は9人まで(応募者多数の場合は抽選)とし、応募写真は返却しません。

倉岳町の浦地区振興会では、地区の魅力を市内外にPRするため、史跡などの地域資源を掲載した「宝島マップ」を、平成19年度に作成しました。また、地区住民の皆さんに地域資源についての理解をさらに深めてもらおうと、同20年度に、浦地区の史跡講演会や歴史勉強会、地区内を歩いて地域資源について学ぶ史跡ウォークのほか、棚底城と同時期に存在したと考えられる浦城跡の現地調査などを実施しました。



▲史跡ウォークで、地域資源などについて学ぶ住民の皆さん

浦の魅力を生かして地域活性化

浦地区振興会(高田護会長)

人材の育成などに取り組みでいきます。その後、伝説などの資料作成や史跡などの調査をもとに「宝島マップ(充実版)」を作成し、子どもたちに浦地区の魅力や歴史などを伝えていくとともに、地区外の人たちを呼び込めるイベントなどを計画し、地域の活性化を図っていききたいと考えています。

地域づくり
コーナー
人が動く
地域が動く
天草が動く

市民のスポーツ

(敬称略)

【第14回天草ロードレース大会】(2月15日、新和町)
※1位のみ掲載。リ=リトルクラブ。
[ミニハーフマラソン(約2.1km)] ●小学4年男子…植田陸輝(亀場) ●同女子…田崎安祐美(同) ●同5年男子…島崎雄太郎(同) ●同女子…関山優真(大多尾) ●同6年男子…倉田浩平(本渡南) ●同女子…濱本夏綺(本渡北)。
[ミニマラソン(約4.2km)] ●中学1年男子…松本優生(有明り) ●同女子…山田夏未(新和) ●同2年男子…濱畑友聖(有明り) ●同女子…宮崎杏奈(同) ●同3年男子…渡邊一磨(本渡東) ●同女子…愛甲彩絵(牛深) ●35~49歳女子…松本美佳(本町) ●50歳以上男子…花谷雄治(新和町) ●同女子…森川保津美(楠浦町)。
[10km] ●高校3年男子…大田侑典(千原台・新和町) ●30歳代男子…平山浩二(天草消防) ●40歳代女子…後藤寿美(五和西中教)。
【第30回NHK杯選抜ママさんバレーボール大会】
(3月7・8日、熊本県立総合体育館)
①天草BB

皆さんの「声」をお寄せください!

市では、市政についての皆さんからのご意見やご提言をお待ちしています。

- ◎ハガキ・封書…〒863-8631(市役所専用・住所記載不要)天草市役所・秘書課広報広聴係あてへ郵送してください。
- ◎市長への便り…本庁や各支所、公民館など公共施設約80カ所に備えている便せんに意見などを記入し、専用封筒に入れてポストへ投かんしてください。
- ◎電子メール…市ホームページの「ご意見箱」コーナーから送信してください。
- ◎ファックス…☎7016へ送信してください。

※ご意見などをお寄せいただくときは、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を必ず記入してください。

【問い合わせ先】
本庁・秘書課広報広聴係 ☎☎1111内線1208

【編集発行】

熊本県天草市役所
総務部秘書課広報聴係
〒863-8631 天草市東浜町8番1号
TEL 0969-23-1111
FAX 0969-22-7016
URL <http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/>
E-mail hisyoka@city.amakusa.lg.jp



先月から若田光一さんが国際宇宙ステーションに長期滞在中。宇宙から見た地球は、海や大陸がよくできた地球儀？自分の行動を空から見るのができたら。編集後記の「空」は、広い視野を持つと思ひ命名したものの、今でも主観的な考え方が多く…反省。【空】

支払いをするため財布を開くと「英世さん」が数人いました。「諭吉さん」は1人だけで、「わしも1人では寂しいのう」と言っているようにして僕を見ている。「学問のすすめ」ではなく「余暇のすすめ」をがんばりすぎて、諭吉さんに見放されているようです。【凡】

桜の花が咲くころになりました。3月13日に福岡では早くも「開花宣言」。これを皮切りに桜前線が南から北上していき鮮やかに彩られることでしょう。寒い冬から暖かい春へと変わっていくこの季節。そして、私の腰痛も冬の状態から脱出できそうな気配です。【走】

毎年、4月号の編集後記を書くとき、それまでの1年間の思い出が浮かびます。反省・苦労したこと、そして皆さんから元気や感動をいただいたこと…。これらの経験は私にとって貴重な宝。今後、この宝を生かせるかどうかは自分したい。新天地？でも、がんばるぞ！【松】



レンズの奥に見える
宝島のキャンパス



生活に欠かせない貴重な“河内川”

VoL.38
栖本町

天草最高峰・倉岳などを水源に、栖本地区を流れる“河内川”。長さ約10kmと天草最長級を誇ります。この川は水量が豊富で、地区住民の飲用水や農業用水として利用されるなど、生活に欠かせない貴重なものとなっています。

河内川をきれいにし、栖本地区をホテルが飛び交うまちにしようと昨年12月、地区住民ら15人でつくる「栖本ホテルの会」が発足。同会では、4月から河内川の清掃など環境美化活動に取り組みます。



【牛深ハイヤ節】(牛深)

平成4年12月に市の無形民俗文化財に指定した「牛深ハイヤ節」。江戸時代から歌われ始め、牛深に立ち寄った船乗りたちが出航前の宴席などで歌い踊られていたといわれています。



▲昨年の「牛深ハイヤ祭り」から

この楽しかった思い出の唄が次の港、次の港へと船乗りたちによって伝えられていったのでしょう。今日では、牛深ハイヤ節を源流とする多くのハイヤ節系統の民謡が全国各地に残されており、全国的に有名な「佐渡おけさ」や「阿波踊り」などもその一つといわれています。

このハイヤ節のリズムに乗って老若男女が軽快に町中を踊り歩く「牛深ハイヤ祭り」が4月17～19日に開催されます。ぜひ、お出かけください。